

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂高等学校 定時制 学校番号 3606

I 自己評価

<p>1 学校教育目標</p>	<p>「基礎学力」と「バランスの取れた人間性」を備え、「社会に出て自立して生きていける人間」を育成する。 (1) 目的に向かって精一杯努力し、チャレンジする生徒 (2) 多文化共生社会の一員として適応できる、自律心と協調性を備えた生徒 (3) 集団をよりよい方向へ導く調整力や発信力を備え、進路を切り開く力を身に付けた生徒</p>		
<p>2 スクール・ポリシー</p>	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標に向かって精いっぱい努力し、チャレンジする生徒 ・多文化共生社会の一因として適応できる、自律心と協調性を備えた生徒 ・集団をよりよい方向へ導く調整力や発信力を備え、進路を切り開く力を身に付けた生徒 	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業、ティームティーチング授業、ICTの活用等とおして、学びなおし授業を丁寧を実施するとともに、漢字・日本語能力及び計算能力の定着を図りながら、生徒の特性に応じて、検定合格等に挑戦させる、きめ細かな指導の推進 ・外国人生徒の日本語支援にあたる職員やスクールカウンセラー等の相談員、外部の専門機関等による支援体制の充実を図りながら、個人懇談、保護者懇談をきめ細かく実施するとともに、学校行事や部活動の活性化を推進 ・グループ対抗校内日本語プレゼンテーション大会をおしてコミュニケーション能力や発信力を育成するとともに、外部機関と連携した進路ガイダンス、企業訪問、卒業生から下級生への助言等、情報収集の機会を充実させ発達段階に合わせたキャリア教育を推進 	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの可能性を信じて挑戦したいという向上心を持ち、目標を見つけて継続して努力したいという意欲のある生徒 ・他者の良さを認めながら、人とならなう学校生活を送りたいと願う生徒 ・学校行事や生徒会活動、部活動に積極的に参加し、充実した学校生活を築いていこうという意欲のある生徒

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

<p>3 評価する領域・分野</p>	<p>◇「教育課程・学習指導」</p>	
<p>4 現状の分析</p>	<p>○学校評価アンケートでは、生徒、保護者ともに教育課程・学習指導に関する項目の評価は総じて高い。 ▲教科の授業とLHRや総合的な探究の時間との連動、日本語指導との連動を意識し、横断的な指導に向けてさらに研究が必要である。</p>	
<p>5 学校の抱える課題</p>	<p>◇国語・数学を中心に基礎学力の定着が不十分である。また、授業規律について継続的な支援・指導を必要とする生徒が一定数いる。 ◇各教科における取組を共有する機会が少なく、効果的な指導などの普及がなされていないことがある。</p>	
<p>6 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の確立と基礎学力の習得と定着。 ・外国籍生徒の日本語能力の向上。 ・職員間の連携を密にし、授業評価アンケートも有効活用しながら、生徒の実態把握に努め、効果的な指導・支援方法を取り入れる。 	
<p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 少人数授業、ティームティーチングを実施し、学び直し授業を丁寧に行います。 (2) 総合的な探究の時間を活用し、漢字・日本語能力や計算能力を定着させます。 (3) 全教科で授業評価アンケートを実施し、授 	<p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 学校評価アンケートで、「少人数授業を行い、生徒の理解が深まるように工夫している」、「基礎学力を身につけられるよう努めている」と答える割合が70%を得られたか。 (2) 校内漢字検定や数学基礎テストを実施し、達 	

<p>業改善を推進します。</p> <p>(4) 外国人児童生徒適応指導員の支援を活用し、言語面から学力向上を支援します。</p>	<p>成度を確認する。</p> <p>(3) 授業評価アンケートで、「生徒の質問に丁寧に答えてくれる」、「先生の説明や板書がわかりやすい」と答える割合が70%を得られたか。</p> <p>(4) 学校評価アンケートで、「外国人児童生徒適応指導員の支援を受けて、授業内容が理解でき学力向上につながった」と答える割合が70%を得られたか。</p>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数・習熟度別授業、チームティーチング、補習・補充の実施。 ・日本語能力試験（J L P T）対策（6、11月）、校内漢字検定や数学基礎力テストをそれぞれ2回ずつ計画、実施。 ・授業評価アンケート（10月）、学校評価アンケート（7月）の実施。 ・外国人児童生徒適応指導員との連携、生徒支援 ・週2回の連絡会、月1回の職員会議における情報共有。 	<p>10 評価視点</p> <p>①定期考査の個人・全体成績</p> <p>②日本語能力試験の受験率と合格者数および校内漢字検定、数学基礎テストの取組の様子、合格者数</p> <p>③生徒による授業評価アンケートにおける授業（学習指導）への満足度</p> <p>④生徒、保護者による学校評価アンケートの教育課程・学習指導に関する項目の評価</p>	<p>11 評価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>A B <input checked="" type="checkbox"/> C D</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
<p>12 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少人数・習熟度別授業、チームティーチング、授業前や放課後の補習を実施することで丁寧な学び直しの機会を設けることができた。授業前や授業後に自主的に学ぶ生徒が増えた。 ○生徒による授業評価アンケートで授業（学習指導）への満足度が非常に高かった。苦手な教科に対しても粘り強く取り組む姿勢につながっている。 ○外国人児童生徒適応指導員による学習指導、懇談の通訳などの支援を多くの生徒に対して実施できた。 ○職員間の連携を密にし、生徒の実態把握に努めることができた。 ○各種アンケートについて、ICT機器を活用して実施することで回収率が高まり、業務削減にもつながった。 ▲J L P Tの受験者が少ない。（今年度はN1 1名、N2 2名、N3 2名受験） ▲家庭や地域社会に情報を届けるための工夫を行う必要がある。 		<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度は新カリキュラム3年目になる。各教科における取組（観点別評価、日本語指導、ICT機器の活用など）について情報共有し、効果的な指導・支援方法については職員研修の場を設けることで、学校全体に普及させていく。 ・J L P T対策講座や漢字学習において、はじめにJ L P Tや漢字の基礎テストを実施し個人のレベルに応じたクラス分けを行う。また、漢字検定のみならずJ L P Tにおいても校内テストを行うことで、生徒の学習意欲を喚起し、日本語能力の向上や受験者数の増加につなげたい。さらに、各担当者からの日程や受験料の補助金についての案内を積極的に行う。 ・多言語でのHP掲載やメール配信の機会を増やし、広く情報発信を行う。 		

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

<p>3 評価する領域・分野</p>	<p>◇「進路指導」</p>
<p>4 現状の分析</p>	<p>○懇談や進路ガイダンスを通じて生徒の相談に応じ、進路希望に沿った適切な情報提供やアドバイスができています。</p> <p>▲生徒への進路に関する情報提供が保護者に理解されていない。</p>
<p>5 学校の抱える課題</p>	<p>◇学校の進路指導の取り組みや行事について保護者への周知徹底が不十分や面がある。</p>
<p>6 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に適應できる能力の計画的な育成と進路希望の実現 ・保護者への進路の情報提供の充実を図る
<p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>

<p>(1) 自己の適性を見極め、適切な進路実現を達成できるよう、各学年の意識段階に合わせたキャリア教育を実施します。</p> <p>(2) 健全な職業観を育成するため、外部機関と連携した進路ガイダンス、企業訪問、卒業生や進路決定者から下級生への助言等を通して、情報収集の機会を充実させる。</p> <p>(3) グループ対抗の校内日本語プレゼンテーション大会を実施し、調整力や発信力を養う。</p> <p>(4) ホームページを利用して進路行事の予定を随時公開し情報提供の場を増やす。</p>	<p>(1) 学校評価アンケートで、「進路希望に沿った適切なアドバイスをしてくれる」と答える割合が70%を得られたか。</p> <p>(2) 学校評価アンケートで、「進路ガイダンスを行うなど、進路に関する情報を積極的に提供してくれる」と答える割合が70%を得られたか。</p> <p>(3) 学校評価アンケートで、「日本語プレゼンテーションでの取組みを通して協調性や発信力を育む場を設けている」と答える割合が70%を得られたか。</p> <p>(4) 学校評価アンケートで「学校は、進路ガイダンスを行うなど、進路に関する情報を積極的に提供してくれる」と答える割合が90%を得られたか。</p>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p>	<p>10 評価視点</p>	<p>11 評価</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ライセンスアカデミーと提携し、職業分野別進路ガイダンス・面接試験講習会を開催した。卒業予定者が語る会を12月に実施した。 ・進路関連の行事を通じて、卒業後の仕事内容を生徒とのマッチングした上での進路決定を目標とし、「卒業後の正社員登用」を模索する。 ・進路アンケートを実施し、生徒一人一人のニーズをつかむとともに、担任や教科担任と連携を取って、希望進路の実現を目指す。 	<p>① 学校評価アンケートで、「進路希望に沿った適切なアドバイスをしてくれる」と答える割合が70%を得ることができた。</p> <p>② 学校評価アンケートで、「進路ガイダンスを行うなど、進路に関する情報を積極的に提供してくれる」と答える割合が70%を得ることができた。</p> <p>③ 学校評価アンケートで、「日本語プレゼンテーションでの取組みを通して協調性や発信力を育む場を設けている」と答える割合が70%を得ることができた。</p> <p>④ 学校評価アンケートで「学校は、進路ガイダンスを行うなど、進路に関する情報を積極的に提供してくれる」と答える割合が90%を得ることはできなかった。</p>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>A B <input checked="" type="checkbox"/> C D</p>
<p>12 成果 課題</p>	<p>○地域創生キャリアプランナーに企業研究・入社試験対策などをサポートしていただいた。昨年度心配したコロナの影響も回復傾向が見られた。</p> <p>○今年度は休校の期間もなく、進路行事は例年通りのものを行うことができた。</p> <p>○公開求人票の条件を見て会社見学を希望する企業の選定や入社試験を受験する企業の選定を生徒自身で考えようとする態度が見られた。</p> <p>▲9名の生徒が進学・就職先未決定となっており、特に就職希望生徒については現在も就職活動をしている最中である。</p>	<p>総合評価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当の経験に左右されず、充実した進路指導が行えるような体制作り、仕組み作りとともに業務継承を確実に行う必要がある。 		

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

<p>3 評価する領域・分野</p>	<p>◇「生徒指導（教育相談）」</p>
<p>4 現状の分析</p>	<p>○学校評価アンケートでは、生徒指導及び教育相談に関係する全ての項目で、生徒・保護者共に8.5割～9.5割と高い肯定的な意見をいただくことができた。来年度も、生徒が基本的な生活習慣を身に付けられるように指導する事を重点にして、更に理解が得られるように取り組んでいきたい。</p> <p>▲学校評価アンケートでは、生徒・保護者共に「わからない」という選択が増えているため、生徒はもとより保護者にも伝わるような指導を考えて取り組んでいきたい。</p>

5 学校の抱える課題	◇校内での問題行動は少なくなってきたが、校外の問題や家庭での問題が原因で学校生活に支障が出る生徒が増えている。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立とバランスの取れた人間性の育成 ・健やかな心身の育成 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 基本的な生活習慣を確立するため、ルールやマナーに関する生徒指導を行う。 (2) 心身の健康管理を自ら適切に行うことができるよう、保健体育の授業に加えて、夏季休業前の外部機関との連携による保健指導を行う。 (3) 個人懇談と保護者懇談を年間計6回実施し、生徒理解に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校評価アンケートで、「基本的な生活習慣を身につけられるように指導している」、「社会におけるルールやマナーを身につけさせる指導を行っている」と答える割合が70%を得られたか。 (2) 講話後のアンケートで、「説明がよくわかった」、「学んだことが今後の生活に生かせる」と答える割合が70%を得られたか。 (3) 学校評価アンケートで、「懇談を行うなど、生徒の悩みや相談に適切に対応している」「保護者と話す機会をきちんと設けている」と答える割合が70%を得られたか。 	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の行動観察、情報共有 ・学習環境の整備 ・HRT、教科担任、養護教諭、適応指導員、外部カウンセラーと連携した教育相談 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の状況把握、モラル・マナー指導の効果 ②教室整備、ゴミの分別回収の状況 ③S C等との研修・懇談の実施と指導方法の研究、相談者の評価 	<ul style="list-style-type: none"> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
12 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○保健室で悩みを相談できる生徒が多くいたため、問題の早期発見、早期対応にもつながった。 ○マスク等の制限がなくなったが、以前と比べると授業中や休み時間に大声で話して迷惑になる生徒が減少。更なるモラルやマナーの継続的な指導の充実を図る。 ▲ゴミ箱のゴミの扱いについて、全日制と共有する教室で指導の差が生じているため、今後の指導を検討する。 	
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・職員連絡会での生徒情報交換を充実させることで、支援を必要とする生徒や問題行動等に対する全職員の情報共有を図り、組織的対応を充実させる。 ・交通安全教育、情報モラル教育を通じて、命を大切に自他を思いやる心を養うための啓発活動を充実させる。 ・学校行事を通じた学校生活の基盤としてのホームルーム運営を充実させる。 	
総合評価		
A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>		

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

3 評価する領域・分野	◇「特別活動」	
4 現状の分析	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動や学校行事を活発に行うことができている。 ▲部活動や学校行事を生徒主体で行うことに至っていない。 	
5 学校の抱える課題	◇部活坊や学校行事を生徒主体で行うことができている。多国籍であるため、日本語能力の差から、日本国籍と外国籍が協力して行事運営することが難しいのも原因であると考えられる。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に、よりよい学校行事の運営や生徒主体の活動を目指す。 ・国籍関係なく部活動や行事に主体的に参加し、活動を通して多文化共生社会の一員として適応できる生徒を育成する。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校行事や部活動を通して、協調性や公共心を育成します。 (2) 学校行事等において国籍関係なく生徒が活躍できる場を多く提供します。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校評価アンケートで、「文化祭などの行事が充実している」、「部活動や生徒会活動が活発に行われている」と答える割合が70%を得られたか。 (2) 教員が連携して、生徒の活躍する機会を多く 	

		提供することができたか。		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価		
<ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員を中心とした生徒が、積極的に行事を計画・運営する。 顧問の連携によって部活動の時間を確保する。 担任や部顧問を中心に、国籍関係なく生徒が活躍できる環境を整え、より多くの生徒にその場面を提供する。 	① 生徒を中心に行事の計画・運営を行い、活発な活動ができているか。	A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C D
	② 部活動の時間を確保できているか。	A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C D
	③ 国籍関係なく生徒が活躍する機会を提供することができたか。	A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C D
12 成果 課題	<p>○アンケートの結果、生徒だけでなく保護者からも、部活動や学校行事に肯定的な意見を90%近くいただくことができた。生徒主体で計画・運営できたことにより、保護者からの理解も得ることができたのではないかと考える。</p> <p>○顧問で連携し、できるだけ部活動の時間を確保し、円滑な運営をおこなうことができた。</p> <p>▲国籍関係なく活躍する場を提供することはできたがその多くが上級生であり、下級生が多国籍に戸惑うことなく行事に参加できるよう考えていく必要がある。</p>	総合評価		
		A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C D
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> 多国籍は加茂高校定時制の特長である一方で、下級生にとっては馴染むのに苦労するところでもあるため、上級生が下級生を巻き込み、下級生の多国籍への不安感を解消したうえで、最終的には多くの生徒が成功体験をすることができるような行事の計画・運営をしていく必要がある。 			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

【意見・要望・評価等】

- 以前、定時制の授業を参観したときに、生徒がスマホやタブレットを用いて保健のレポートの下書きを作成していた。生徒から文字数がカウントされるので便利だと教えてもらった。いろいろな場面で活用されている様子が見られた。
- デジタルとアナログにはどちらにも良さがあり、得意・不得意があるため、生徒にとっては併用していくのが良いのではないか。
- 自主的に学ぶ生徒が増えたことが素晴らしいと思う。学びたい気持ちを持ってはいたが、中学校まではなかなか取り組めなかった。しかし高校に入って学ぶことでできるようになった様子が伺えた。きちんと学べる場があることで、生徒には充実した生活が送れているのではないか。